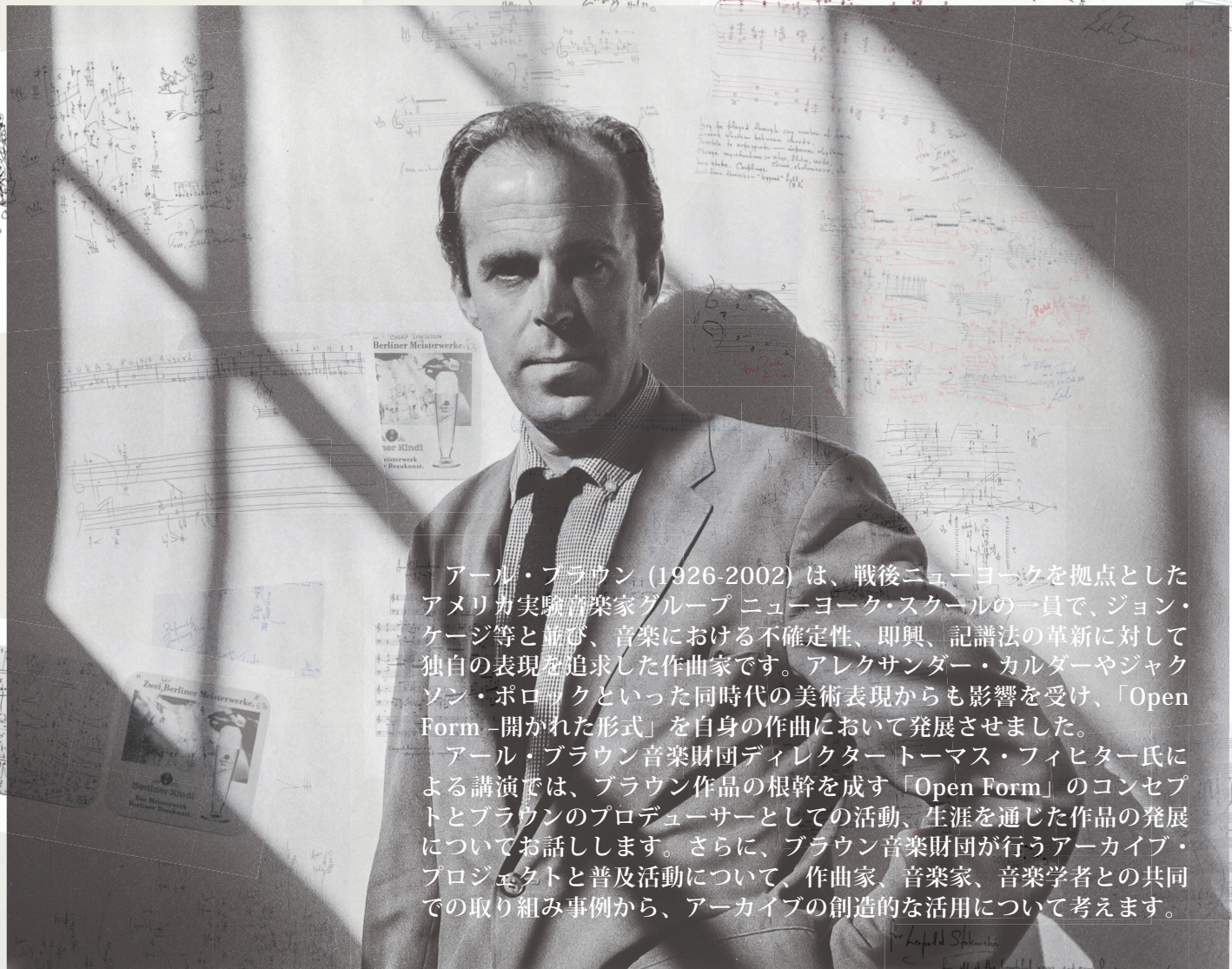


アール・ブラウン音楽財団 - 理念、記録、プロジェクトとアクティビティ -



Earle Brown's Graphic Gift Sketches (提供: The Earle Brown Music Foundation)

アール・ブラウン (1926-2002) は、戦後ニューヨークを拠点としたアメリカ実験音楽家グループ「ニューヨーク・スクール」の一員で、ジョン・ケージ等と並び、音楽における不確定性、即興、記譜法の革新に対して独自の表現を追求した作曲家です。アレクサンダー・カルダーやジャクソン・ポロックといった同時代の美術表現からも影響を受け、「Open Form - 開かれた形式」を自身の作曲において発展させました。

アール・ブラウン音楽財団ディレクタートーマス・フィヒター氏による講演では、ブラウン作品の根幹を成す「Open Form」のコンセプトとブラウンのプロデューサーとしての活動、生涯を通じた作品の発展についてお話しします。さらに、ブラウン音楽財団が行うアーカイブ・プロジェクトと普及活動について、作曲家、音楽家、音楽学者との共同での取り組み事例から、アーカイブの創造的な活用について考えます。

2016年11月30日(水) 17:30 ~ 19:00

講師: トーマス・フィヒター

会場: 京都市立芸術大学 交流室 参加無料 (事前申込不要)

主催: 京都市立芸術大学芸術資源研究センター

通訳・コーディネーター: 青嶋 絢 (大阪大学文学研究科博士後期課程在籍)



Thomas Fichter

講師プロフィール:

アール・ブラウン音楽財団 (EBMF) ディレクター。ドイツ出身、ニューヨーク在住。フライブルク音楽大学卒業後、演奏家 (ベース・コントラバス奏者) としてクラシック、ジャズ、現代音楽など幅広い分野で活躍。Ensemble Modern (フランクフルト) のディレクター兼演奏家として、国際的な音楽フェスティバルやコンサートに多数出演する。現代音楽アンサンブル music Fabrik (ケルン) エグゼクティブディレクター就任 (2001-2004年)。これまで、ブーレーズ、ブラウン、リゲティ、ノーノ、ライヒ、シュトックハウゼン、クセナキスなど欧米の著名な現代音楽作曲家と仕事を共にする。2006年よりアール・ブラウン音楽財団ディレクターに就任。ブラウンのバイオグラフィー、作品アーカイブのオンラインインベントリー作成、楽譜再編出版事業などのアーカイブ事業に携わる。加えて、現代音楽の普及プログラムを積極的に企画する。2017年にはTIME SPANS festival、若手作曲家育成夏季プログラムなどをニューヨーク市で開催予定。